

# 普連土学園校友会報



No. 114

発行責任者：進藤 玲子  
令和8年(2026年)2月15日

## 目次

創立記念礼拝	2
クリスマス礼拝・懇親会	3
【特集】校友会バザー	4
成人を祝う会・八十歳になりました	6
普連土だより・同窓会報告	7
宮武志郎先生を偲んで	8

## 宝物ひとつ

### 近況報告に代えて

普連土学園校長

青木 直人



愛犬「くうちゃん」と

キリスト教は「対話の宗教」です。モ―セ五書には自らの判断を後悔する神が、また福音書には民衆の執拗な訴えに態度を改めるイエスが描かれます。その流れの中で成立したキリスト教は、社会との「対話」を通して変化してきました。フレンド派もまた、キリスト教史上類を見ないほど大胆な変化を遂げました。その流れの端に位置する普連土学園も、世の荒波に翻弄されながらもそれに抗い、変化してきました。2022年秋からの刷新作業は、社会の変化に徒に迎合することなく、創立教派が本来持っていた方向性を精確に捉え直し、あるべき学園の姿を目指すものです。

現中学校舎再評価もその動きの一つです。23年夏頃から、法政大学デ

ザイン工學部の小堀研究室のご厚意により、大江宏再評価の企てに普連土生有志も参加させていただくこととなりました。

ある時、見学に来られたある建築家に、受験生やその保護者からこの校舎の古さ、狭さだけでなく、その暗さに対するマイナスの受け止めがあることを話したところ、「いやそれこそがいいのです。生徒昇降口を登り上履きに履き替え、廊下の薄暗がりや明かり取りの窓から漏れる光に導かれて教室に足を運ぶ。そこには、開放的な窓から光溢れる世界が開けているという物語になっているのです」と応じられました。その時はじめて、この校舎がヨハネ福音書のキリスト論そのものにかたちを与えた建築なのだということに気づか

されたのです。「光は闇の中に輝いている」(ヨハネ1・5a)。この福音書を大切にしてきたフレンド派を創立母体を持つ学園が、そのことを大江に伝えなかつたはずはありません。となると、大江はヨハネ福音書を読んだ上でこの校舎の設計にとりかかったと考えるのが自然です。この世の闇に輝き出た光としてのイエス・キリストの物語。ヨハネはそのような視点でイエスを描いています。この校舎で三年あるいは六年を過ごすことで、生徒たちは知らず知らずのうちにヨハネの描くイエス・キリストの物語を追体験するのです。そう気づいてこの校舎を眺めると、大江宏という偉大な建築家の、教育への深い想いが隔々にまで息づいていることが判ってきます。

このような宝物が与えられていることに感謝しつつ、教育のわざに当たらせていただいているこの頃です。



明かり取りの窓(中学校舎)

普連士学園創立138周年記念礼拝  
共に生きる——「寛容の心」と「共感の心」と「共感の力」がつくる未来

95回生 神田史緒  
かんだ 史緒



多くの移民を受け入れ、多様性を強みとしてきた欧米諸国がもがいている。ヨーロッパでは極右政党が台頭し、イギリスでは移民受け入れに反対する大規模デモが続く。2021年春からの4年間で、移民や外国人排斥をめぐる深い分断と対立を、日々の暮らしの中で体感した。「移民の国」として知られてきたこの国に何が起きているのか。なぜこれほどまでに排斥に舵をきったのか。背景の一つには白人人口の減少による危機感があるとされる。ヒスパニックやアジア系人口が増加する2050年、白人人口は50%を切るという。その他、経済格差、SNSで発信される偽情報の影響、生活苦にあえぐ人の中には、移民・難民が恩恵を

受けることへの憤りもあるという。建国以来7千万人以上の移民を受け入れてきたアメリカだが、移民・外国人排斥は過去にもあった。80年前の日本軍による真珠湾攻撃後、敵国となった「日本の血」を理由に、日本人と日系人12万人が「敵性外国人」として排斥され、強制収容された。「歴史を繰り返してはならない」という思いを新たにしている。



共和党大会取材で同僚たちと

そもそも私がドキュメンタリー制作を志したのは、「肌の色や言葉や文化が違ってても、人間はみな同じ生き物。分かり合えるはずだ」という幼い好奇心からだ。これまで撮影に出かけた国や地域は30以上。旅するだけでは飽き足らず、ニューヨーク、ロンドン、上海と20年に渡って海外で暮らした。そこで経験したのは、しかし、多文化共生の難しさだった。一方で、異なる文化や価値観が交錯する中、対立や衝突を繰り返しつつも共生を模索する人々の逞しさとしなやかさに圧倒されたことも少なくない。

そんな彼らから「多文化共生への鍵」として学んだのは、「外国人」として暮らす国への敬意と配慮、そして、共に相手の違いを認めて尊重する「寛容の心」、違いを超えた先に共通の価値を見いだす「共感の力」だ。

日本も外国人住民が400万人近くとなり、2050年には人口の1割に達する見通しだ。外国にルーツを持ちながら日本を「祖国」とする若い世代も増えている。欧



核に関する討論番組の制作陣と

米諸国の実情を「反面教師」とは言わないが、「移民問題」を感情論ではなく冷静に捉え、日本の風土に適した、目指すべき多文化共生社会の形を模索することが求められる。未来を形づくるのは国や制度だけではなく、私たち一人ひとりだ。「寛容の心」と「共感の力」という小さな種を心に育てていくことが、これからの時代を照らす松明になるのではないか。

(神田史緒プロフィール)  
「日本を世界に、世界を日本に」をモットーに、NHKや英・BBCで番組制作。2021年、NHKワールド米拠点立ち上げて二度目のNYへ。大統領選挙や移民問題等を取材した。

本日は普連士学園の卒業生、村田邦子さんのことについてお話しします。今はこの地上にはいらつしやいませんが、気持ちが悪くなるというも心にフツと入ってきてください、スツと楽になります。出合いは友会のボランティアで、村田さんは私が連れていた4歳と3歳の娘達を見るや満面の笑顔になられ、初対面の子供をここまで温かく迎えてくださるのかと、そのお姿に敬服いたしました。

食いしん坊同士の私達は十回余りお食事をご一緒しました。特に印象に残っているのは宇都宮のご自宅に伺ったときで、台所で料理をされている村田さんの背中に向かって「どんなところでお祈りをされるのですか」と伺うと、背を向けたまま右手の人差し指で上を指し、「いつでも天はあるから、どこにいてもお祈りしているのよ」とおっしゃいました。その後ろ姿が今も鮮明に目に浮かびます。

しばらくご無沙汰したあるとき、転居された平塚のお住まいにお招き頂きました。当日の様子から万全のご体調ではないことを察しながらも、共に讃美歌を歌い、

校友会クリスマス礼拝

12月6日(土) A音楽室 出席者101名

「心に灯を点す人」

ルカによる福音書24章28節～35節

キリスト友会日本年会代表  
土浦月会会員  
元普連士学園評議員  
鯉淵博子さん



くなられたことを伝えられました。ホスピスの受付の電話の前で慟哭する私を見かねた職員の方、村田さんが最期にストレッチャーで回られた廊下や広間を一緒に辿りながら当時のご様子をお話してくださいました。窓いっぱい富士山が広がるその広間では生け花のクラスが開かれていて、村田さんがぼそっと「綺麗ね」とおっしゃると、生けていた方が一本のお花を村田さんに手渡し、村田さんはそれを愛しげにみつめておられたそうです。そのように

楽しく過ごしました。その日、ご自分のブレザーを「もらって頂けないかしら」と私にくださり、本日はそれを着て参りました。

その後村田さんがホスピスに入られたと伝え聞き、慌てて何うと、受付で「退院された」と言われ、状況が掴めずにその場で啜嗟に普連士学園に電話したところ、ためらうような間が空いた後、亡

お話を伺っているとまるでそこに村田さんがいらつしやるようでした。

後日、村田さんが生前に妹さんに託され親しい方々に届けられた絵手紙を拝見し、私はいい時間をたくさん持たせて頂いたのに、何もお役に立てずにお別れしてしまったことに心残りとし寂しさを感じました。喪失感がこれほどまでに大きいのは何故なのか、それは村田さんとの時間に「無条件の愛」が溢れていたからでした。その愛を与えられた瞬間が深く心に残り、思い起こすと灯が点り、生きるエネルギーが湧く。そのような愛です。

こうして今も村田さんは私の心に灯を点してくださいありがとうございます。

本日もお話しするにあたり、妹さんからご承諾を頂きました。



村田邦子(60回生)旧姓 佐藤。体育・英語、聖書の教員として在職。2007年永眠。(写真史料室提供)

(お話を編集担当が要約しました)

懇親会

クリスマス礼拝後、親睦会がローズホールにて開催されました。ミニバザーや聖歌「Trends」の歌声にほっとひといき、心温まる普連士のクリスマスを過ごしました。



村田邦子さんの絵手紙

## 委託部：ローズホール



委託部は外部業者から商品を仕入れ販売をしています。前回のバザー終了後から業者の選定、仕入れの交渉、売値の検討を重ね、今回は、ふれんどら、ガレット、ボルボロンを販売しました。

また、校友生の出店フォローとして保健所への届出書類作成、駐車場の手配なども担当しています。そして、お手伝いくださる方々の配置や会場の設営も委託部の重要な役目です。



柳澤絵女 (108)  
Spice of Smile  
手作りチャーム、ストラップ、アクセサリ



矢ヶ崎圭子 (81) 奥野敦子 (83)  
林組 手芸品



浦山はるみ (82)  
SATO BEE GARDEN  
神奈川県産蜂蜜



### 仕入れ販売

ふれんどら  
ガレット  
ボルボロン



廣田雅子 (79)  
セラフィック株式会社  
衣類



作田穂恵 (87)  
T&H Jam Factory  
ジャム、焼き菓子



坂田恵理子 (92)  
Saison de la mer Zushi  
カヌシ、フィナンシエ等の焼き菓子

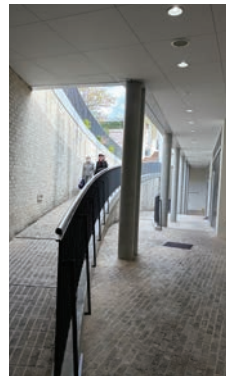
日比谷文恵 (90) 岡本康予 (90)  
花工房あまりりす  
正月飾り、クリスマスリース、手作り雑貨、アクセサリ

## 校友生出店

土屋梨影子 (83)  
植松佐枝子 (92)  
東京月会  
出版物

坂田恵理子 (92)  
Saison de la mer Zushi  
カヌシ、フィナンシエ等の焼き菓子

日比谷文恵 (90) 岡本康予 (90)  
花工房あまりりす  
正月飾り、クリスマスリース、手作り雑貨、アクセサリ



※バザー委員会は、委託部、手芸部、アクセサリ部に分かれ準備・運営をしています。

日曜日開催にもかかわらず、前日、当日には78名の校友生、後援会から18名のFF倶楽部、警備の皆様が例年と変わらないご協力をいただきました。心より御礼申し上げます。

校友生による手作りの温かさを纏う手芸品の数々。メンバーの確かな技術とプロ意識が支えています。時代のニーズを反映させながら次のバザーに向け一年を通じ作っています。



## 校友会事務局：フリージアホール

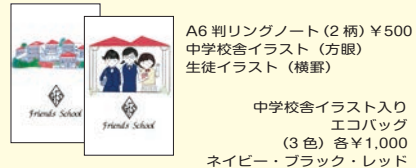


福祉施設のお菓子と校友会ミニ講座講師のハーブティー、アロマオイルを取り揃えました。

- \*社会福祉法人白根学園 社会就労センターのぞみ 焼き菓子
- \*特定非営利活動法人ばれっと 就労継続支援B型事業 おかし屋ばれっと 焼き菓子
- \*宮澤景子 (「明日の庭」運営統括責任者 シニアハーバルセラピスト他) ハーブティー
- \*早乙女まりか (アロマセラピーインストラクター他) アロマオイル

## 校友会グッズ

ローズホール入り口前



A6判リングノート(2柄) ¥500  
中学校舎イラスト(方眼)  
生徒イラスト(横罫)

中学校舎イラスト入り  
エコバッグ  
(3色) 各¥1,000  
ネイビー・ブラック・レッド

中学校舎イラスト入り  
コンビバッグ  
¥800 ネイビー

クエーカーレディ  
イラスト入り  
フラットポーチ ¥700

校章入りフリクションボール  
3色ペン  
(本体色4色) 各¥700  
ブラック・レッド・  
ブルー・ソフトピンク

新たな校友会グッズとして5種類11品がお披露目となりました。「日用品を通じていつも心に普通土を感じられるように」との思いを込めて、校友会役員が企画、イラストは出版委員イラスト担当が手掛けました。

街で校友会グッズを持っている人を見かけたら「ひょっとして校友生？」と交流のきっかけとなれば嬉しいです。



イラストを手掛けた出版委員 石原美帆子 (95)

バザー委員会で販売品の製作など共に活動くださる方、オリジナル商品で出店したい方、当日の会場設営や販売などお手伝いくださる方を募集しています。ぜひご連絡ください。

バザー委員会メールアドレス：  
bazar.friends.koyukai@gmail.com  
2026年度バザーでまたお会いしましょう！



# 校友会 バザー

2025年 11月16日(日) 11時~14時

## アクセサリ部：E セミナー室



ネックレス・イヤリング・指輪など販売品は全て校友生から寄贈されたもの。「子供の頃にお小遣いを握りしめて行ったお菓子屋さんで味わったようなワクワクの宝さがし感覚を楽しんでもらいたい」をコンセプトにしています。

一緒に企画する仲間募集！

## 手芸部：F セミナー室



学園の各教室にも飾られていた「サンタさん」。52回生が作り始めて30年ほど続く人気の品。

毎年人気の「トライアングルツリー」。20年ほど前から受け継がれています。

校友生による手作りの温かさを纏う手芸品の数々。メンバーの確かな技術とプロ意識が支えています。時代のニーズを反映させながら次のバザーに向け一年を通じ作っています。

校友生から寄贈された材料が次々と手芸品に生まれ変わっていきます。お手元にお使いにならなくなった手芸材料がございましたら事務局までご一報ください。

## 特別イベント：A 音楽室

聖坂 Friends と歌いましょう！  
コーラスの会

客席は大入り満員。歌声に思わず涙ぐむ方も。ラストはハレルヤで全員がひとつに。



# 131<sup>回生</sup> 成人を祝う会

1月12日(月)、品川プリンスホテルにて131回生「成人を祝う会」を行いました。当日は青木校長先生をはじめ6名の先生方にご臨席いただき、計107名が集まりました。中学2年生からコロナ禍が始まり、マスク着用が当たり前前の時期を過ごしてきた私たちですが、制限が緩和された今、こうして立食パーティー形式で成人という節目を学年全体で祝うことができ、心から嬉しく思います。

会場には色とりどりの振袖が並び、久しぶりの再会も相まって、華やかで和やかな雰囲気になっていました。また、クラスや部活動などのグループごとに写真撮影を行ったり、在校時代と変わらず語り合ったりする姿から、普連士生らしさを感じる場面も見られました。



看護学部で共に頑張る仲間



バスケットボール部集合



受付対応している幹事

閉会後も名残惜しそうに写真を撮り合う姿が印象的でした。131回生にとって、この再会でできた貴重な時間は、積み重ねてきた日々と変わらないつながりを実感し、かけがえのないひとときとなりました。(木村友香)

## 八十歳になりました

傘寿を迎えられた70回生の皆様に浦口先生が描かれた絵葉書セットをお送りしました。

※80才になった節目の年に懐かしい浦口先生の絵葉書をお送りくださりありがとうございます。

※三つ編みの浦口先生のお姿を思い出しております。

※先生の白衣姿を思い出します。

※浦口先生は少しも飾ることなく熱心に教えてくださいました。私は草花が大好きです。

※傘寿になって思うことは、普連士で過ごした6年間は幸せな月日だったと感謝しております。

※つい最近まで先輩方へ傘寿のお祝いをお届けしていたと思いましたが、この度絵葉書をお送りいただき月日の経つたことに感無量です。

※校友会のお働きが、ますます神様に祝されますように！

お便りをくださった方々

有馬千恵子 大泉みつ代

佐藤順子 篠田小静 島田恵子

村上多價子 山本礼子

## 校友会による全校礼拝

今年度も11月に2人の方がお話しくださいました。

◆11月17日 佐藤紀和(93回生)

『普連士学園校友会報』を出版している出版委員の仕事を通じて、普連士学園の「らしさ」は生徒の輝きや時代を超えて受け継がれる多様な経験の積み重ねだと実感した。卒業後もそれぞれの経験を分かち合い、つながり続ける場として校友会がある。

◆11月25日 山下美聡(113回生) ヤングフレンドズの集いで自分を見失いかけていたことに気づき、周囲とのつながりや沈黙の価値を再認識し、東京月会の会員となった。互いに支えあえる仲間をみつつけ、自分の心に正直に成長していくためにも、沈黙の時間を大切にしたい。(文責 校友会会長 進藤玲子)



見失いかけていたことに気づき、周囲とのつながりや沈黙の価値を再認識し、東京月会の会員となった。互いに支えあえる仲間をみつつけ、自分の心に正直に成長していくためにも、沈黙の時間を大切にしたい。

## 普連士だより 学校近況

第185信

「制限のない年度初めを数年ぶりに迎えることができた」昨年度でしたが、その日常を当たり前に始めることができた今年度。生徒の声の絶えることのない、平和な日常を過ごしています。

昼食時のたわいもない会話など、当たり前と思えることの大切さは忘れないようにと思います。体育祭や合唱コンクール、学園祭、宿泊行事など、すべてつつがなく実施することができています。

今年度は137名の新入生を迎えました。4月には、上級生から新入生への讚美歌練習会や掃除指導がありました。普連士学園が大切にしていることを、上級生から下級生へ伝えていけるように、そして生徒と教職員とで共に守っていかれるようになっていきます。

ベツレヘムの星点灯礼拝は、2年目ということもあり、参加者数が気になりましたが、昨年度と同様100名ほどの生徒が参加し、クリスマスを迎える準備をしました。キャンドルライトを手に皆で讚美歌を歌い、ベツレヘムの星が点灯されました。礼拝後には温かい飲み物を飲みながら語り合い、ちよつと寒いですが、暖



かい時間を皆で過ごしました。収穫感謝礼拝で集めたお米は、今年度から本所賀川記念館での事業「子ども食堂」でお役立ていただくことになりました。賀川記念館には、光の園保育学校とのバザーで、今年度も生徒たちがお世話になりました。

2027年度より着工予定の、長く生徒たちを見守ってきた高3校舎(旧第二特別校舎)と体育館の場所、新校舎建築が始まります。校舎は変わっても、生徒たちへ伝えたい思いは、これからも続けていきます。

余談ですが、校友生の教員から「めっちゃ読んでます。普連士生は活字を見ると読むんです。」とプレッシャーをかけられました。

12月になり、講堂にはクリスマスの生徒が飾り付けをしました。クリスマス礼拝では、伊藤多香子先生のお話を伺います。

来年も、平穏な学園生活を送らせられるよう願っています。(2025年12月 松浦良知先生記)



## 同窓会をひらきました

75<sup>回生</sup>

2025年6月21日、普連士学園の一室をお借りして参加者15名で同窓会を開催いたしました。

校友会の方のご案内で新しくなった校舎を見学したり、部活で来ていた後輩とのふれあいがあったりと、久しぶりの母校での楽しい時間を過ごすことができました。おしゃべりも尽きませんでした。最後に2年後の再会を約束して閉会となりました。校友会の皆様には色々とお配慮いただきありがとうございます。 (幹事・野口南・江越京子・鈴木千恵子)



数え年で喜寿を迎えた私たちも集まれば学生時代にタイムスリップ

93<sup>回生</sup>

梅雨が明け、暑さ厳しい2025年7月19日、93回生の同窓会を

11年ぶりに開催致しました。懐かしい浜野先生、菊池先生をお迎えし、総勢35名の笑顔、音信不通だった友との感動の再会は、会を企画して本当に良かったと思えるものでした。加納先生からの心温まるお手紙のサプライズに感動し、普連士にまつわるクイズで大盛況となりました。卒業後40年、人生の機微を乗り越え、喜びや苦労を分かち合える友に、そして素敵な時間と温かい協力や励ましに感謝致します。(幹事・赤澤夏子・穴澤亜紀子・田口美也子)



前列左から3番目菊池先生、4番目浜野先生 CORE 田町にて

